

秩序あるニーム産業発展のため、ニームコンソーシアムにご参加ください

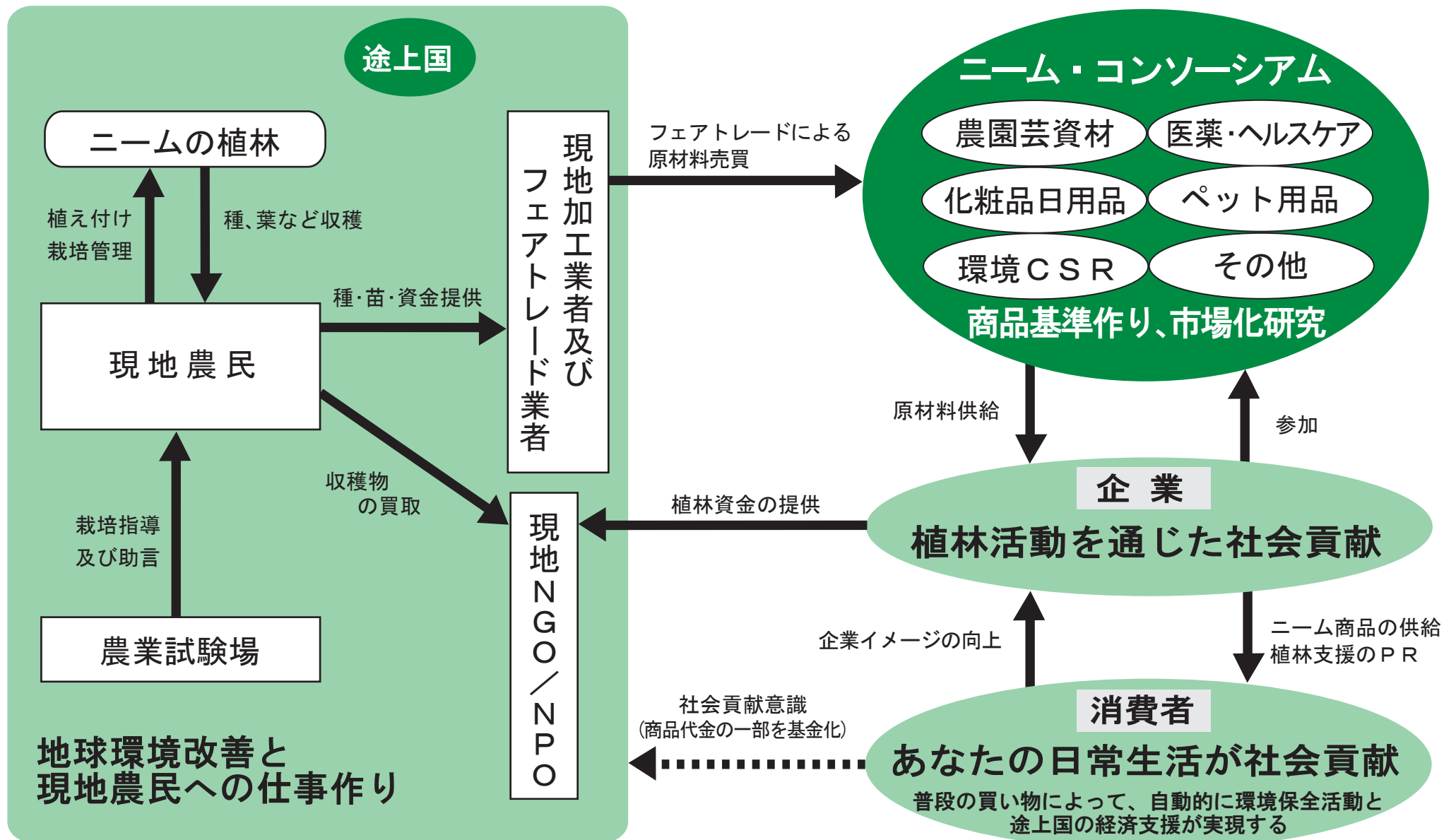
近年、日本でもニームの認知が拡大し様々な商品が出回るようになってきました。消費者にニームが身近な存在になりつつある一方、一部では粗悪品が販売され、また不十分な商品説明などにより、消費者が不利益を被っている現状もあります。こうした現状を鑑み、ニーム商品の製造メーカー、販売業者、またニームの研究者らが一丸となり、「健全な市場と秩序ある発展」によるニーム産業の構築が必要な時期になって来たと考えます。

そのために本コンソーシアムでは、消費者へのニームのPRおよび普及・啓蒙に取り組み、ニームの商品およびサービスに関する正しいニーム情報を発信致します。

さらに、ニームは「農園芸」「化粧品」「ヘルスケア」「医薬品」等々、多くの目的のために活用することができるため、各分野ごとの連携はもちろん、企業と大学などの研究機関とが連携した、いわゆる産学連携のための受け皿組織としての役割もコンソーシアムは備えます。

本コンソーシアムでは、上記活動により秩序あるニーム産業発展を目指すため、趣旨にご賛同いただける企業等のみなさまにご参加をお願いするものです。

ニーム市場化スキーム



コンソーシアムの目的

1. 消費者と流通チャネルへ、ニームの認知拡大と市場整備による粗悪品排除
 2. 産学官連携による客観的評価基準の策定
 3. ニームの新たな活用方法の研究
 4. 国内外の関連機関との連携
- その他、本コンソーシアムの目的達成に必要な諸活動

コンソーシアムの組織

分野ごとに以下の部会を設置する。

- 農園芸部会
- 化粧品・日用品部会
- 医薬・ヘルスケア部会
- ペット用品部会
- 環境CSR部会

部会

- ①農園芸部会
アドバイザー：山下伸夫氏（(独)農業・食品産業技術総合研究機構 東北農業研究センター カバークロップ研究チーム長）
大東 宏氏（元農林水産省国際農林水産業研究センター、農学博士）
石見 尚氏（農学博士、『ニームとは何か？』著者）
- ②化粧品・日用品部会
アドバイザー：萩島由紀子アールヴェーダサロン・サトヴィック代表（予定）
- ③医薬・ヘルスケア部会
アドバイザー：上馬場和夫氏（富山県国際健康プラザ国際伝統医学センター次長、医師・医学博士）
- ④ペット用品部会
アドバイザー：未定
- ⑤環境CSR部会
アドバイザー：本郷 尚氏（国際協力銀行京都メカニズム担当審議役）（予定）
萩原孝一氏（国際連合工業開発機関 東京投資・技術移転促進事務所 工業開発官）

事業計画（案）

1. PR事業
多くの消費者にニームを知らせるために、各種方法でPRを行う。
①小冊子作成
会員企業の販促ツールとしても活用可能な、わかりやすくニームを紹介する小冊子を製作する。
②展示会への出展
ニームの認知拡大のため、関連する各種展示会にコンソーシアムとして出展する。
例えば、
健康博覧会（主催 CMPジャパン株）
ダイエット&ビューティーフェア（主催 CMPジャパン株）
ジャパングーデンショー（主催 ガーデンを考える会ほか）
ナチュラル・プロダクツ・エキスポ・ジャパン（主催 NPO全健協ほか）
農林水産祭「実りのフェスティバル」（主催 農水省ほか）
エコプロダクツ（主催 社団法人産業環境管理協会ほか）
日比谷公園ガーデニングショー（主催 同展実行委員会）
国際フラワーEXPO（主催 日本フローラルマーケティング協会ほか）
など
2. 基準策定事業
現在、流通するニームの農園芸資材の中には品質の悪い粗悪品もあり、こうした商品を排除するためニームコンソーシアム農園芸部会として自主基準を策定し、消費者に間違いのない商品を提供することを目的とする。
農園芸の場合、ニームの主要成分であるアザディラクチンが虫に作用することが解明されているため、この成分の含有量を指標に基準を作る。
東北農業研究センターの山下伸夫氏にアドバイスを仰ぎ、会員各社の商品の成分含有量を調査し、会員相互の検討によって暫定的な基準を策定し、将来、公的機関等による委託試験を行い科学的な証明をもって正式な基準の策定を目指す。
農園芸以外の商品についても、同様の過程を経て基準を作ることを目指す。
3. 商品調査事業
粗悪品を排除するために、ニーム成分を配合した商品の成分内容を会員および非会員企業に対して調査を行い、体系的にまとめる。